

長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路の植物相補遺Ⅱ

石田祐子¹・中山 洸²

キーワード：植物相，長野市，飯綱高原

長野県環境保全研究所飯綱庁舎敷地内の植物相調査は過去に藤原¹⁾によって植栽木を含めた敷地全域の植物相の調査が行われた。その後、大塚ほか²⁾によって、自然観察会や各種学習会に利用されることの多い、敷地西側の自然観察路沿いの植物相の調査が行われ、92科314種10変種2雑種が報告された。その後、横井ほか³⁾は、大塚ほか²⁾に従って調査を行い、新たに14科27種2変種の追加を報告し、観察路沿いで確認された維管束植物は95科342種11変種2雑種となった。

今回、大塚ほか²⁾、横井ほか³⁾以降に新しく確認された維管束植物を報告する。

調査は、大塚ほか²⁾に従い、研究所敷地内の西側観察路（調査ルート延長約1200m）沿いを探索し、観察路から目視できる範囲（観察路の両側5mくらいまで）に出現する維管束植物を記録した。調査は、2015年から2017年の5月から10月にかけて不定期に行った。総調査日数は計10日である。現地での同定が困難な種については、標本作製後に同定を行った。補遺目録(付表)の科名、学名、科属の配列等は、既報に従い長野県植物誌⁴⁾に拠った。長野県植物誌刊行後に分布が確認された種、分類が見直された種の学名については、長野県植物目録⁵⁾に従った。

調査の結果、新たに追加されたのは、16科19種6変種1品種であった（付表：環境保全研究所自然観察路沿いの植物目録補遺Ⅱ）。また、大塚ほか²⁾により、オオバセンキュウ *Angelica genuflexa* Nutt. とされていたものがヒュウガセンキュウ *Angelica minamitanii* T.Yamaz., マムシグサ *Arisaema serratum*(Thunb.) Schott とされていたものがキタマムシグサ *Arisaema peninsulae* Nakai subsp. *boreale*(Nakai) Serizawa であったことが明らかになった。これらにより、観察路沿いで確認された維管束植物の合計は96科359種17変種1品種2雑種

となった。

今回、新たに追加した種の中で、近年、新種記載された種や、分類が再検討された種など特筆すべきものは下記の通りである。

バラ科 キンミズヒキ属

オオキンミズヒキ

Agrimonia pilosa Ledeb. var. *viscidula* (Bunge) Kom.

オオキンミズヒキは、芹沢⁶⁾により2008年に記載された。オオキンミズヒキは、茎の毛が長く、托葉が大きいこと、雄ずいが（しばしば）多く、茎が太く全体に強壯で、小葉は通常7枚、花は花序に密につくという特徴をもつ⁶⁾。

敷地内のキンミズヒキ属の種は、キンミズヒキ *Agrimonia pilosa* Ledeb. var. *japonica* (Miq.) Nakai とオオキンミズヒキになった。

セリ科 シシウド属

シシウド属のものとして、これまで、オオバセンキュウ、シラネセンキュウ *Angelica polymorpha* Maxim., ノダケ *Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav., アマニユウ *Angelica edulis* Miyabe ex Y.Yabe が報告されていたが、敷地内でオオバセンキュウとされていたものはヒュウガセンキュウであり、オオバセンキュウは生育していないことが分かった。

また、車道付近の比較的明るい立地にミチノクヨロイグサ *Angelica sachalinensis* Maxim. var. *glabra* (Koidz.) T.Yamaz. が生育していることが確認された。

ヒュウガセンキュウ

Angelica minamitanii T.Yamaz.

ヒュウガセンキュウは、1996年に南谷忠志氏が宮

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野県長野市北郷 2054-120
(現：株式会社自然教育研究センター 〒190-0022 東京都立川市錦町 2-1-22)

2 〒385-0041 長野県佐久市鍛冶屋 194

崎県で発見し、2001年に Yamazaki⁷⁾により新種記載された。ヒュウガセンキュウの分類学的位置づけについて検討される中で、宮崎県だけでなく、広島県、高知県、長野県にも分布していることが判明した⁸⁾。また、長野県内の分布について、北信ではヒュウガセンキュウとオオバセンキュウの両方が見られるが、ヒュウガセンキュウは標高 1100m 以下、オオバセンキュウは標高 1200m 以上に生育していることが報告されている⁹⁾。

オオバセンキュウは鋸歯が細かく(数が多く)、葉裏の葉脈の編み目が細かい傾向にあるが、ヒュウガセンキュウの鋸歯は大きく(数が少ない)、葉裏の葉脈の編み目が大きいという特徴を持つ⁸⁾。Azuma¹⁰⁾は、ヒュウガセンキュウの染色体数を調べ、ヒュウガセンキュウが 10 倍体(染色体数は 110 本)であり、2 倍体(染色体数は 22 本)であるオオバセンキュウとは異なることを明らかにしている。

ミチノクヨロイグサ

Angelica sachalinensis Maxim. var. *glabra* (Koidz.) T.Yamaz.

長野県内でエゾニュウ *Angelica ursina* (Rupr.) Maxim.として認識されていたものは、ミチノクヨロイグサであったことが 2016 年に報告された¹¹⁾。ミチノクヨロイグサは多型であり、かつシシウド *Angelica pubescens* Maxim.との中間的な特徴を有する個体も見つかっており、現在、分類学的再検討が行われている^{11~13)}が、今回は、藤田¹¹⁾に従い、ミチノクヨロイグサとして記録した。

サトイモ科 テンナンショウ属

キタマムシグサ

Arisaema peninsulae Nakai subsp. *boreale* (Nakai) Serizawa

敷地内のテンナンショウ属としては、これまでマムシグサが報告されていた。テンナンショウ属の分類については、いくつかの見解があるが、今回は芹沢¹⁴⁾に従ったところ、敷地内ではキタマムシグサが確認できた。また、長野県環境保全研究所植物標本庫(NAC)の標本を再検討したところ、トウゴクマムシグサ *Arisaema koidzumianum* Kitamura (NAC146687, 181301)の標本があることが確認できた。(邑田¹⁵⁾は、キタマムシグサをコウライテンナンショウ *Arisaema peninsulae* Nakai の 1 型とし、トウゴクマムシグサをカントウマムシグサ

Arisaema serratum (Thunb.) Schott に含める見解を示している。)トウゴクマムシグサの標本が敷地の西側で採られたものか、東側で採られたものかについては分からないため、今回の目録への掲載は見送るが、今後、敷地内のテンナンショウ属の再確認が必要だろう。

謝 辞

本稿の作成にあたり、大塚孝一博士には、シダの同定をはじめ様々な面で大変お世話になった。また、さく葉標本ボランティアの伊藤静夫氏、菅沼住子氏、増尾喜美子氏、増尾涼子氏、村田絢子氏には、調査や標本作製にあたりご協力を頂いた。記して感謝申し上げます。

文 献

- 1) 藤原陸夫(1999) 植物野外観察資料 長野県自然保護研究所周辺の植物相. 長野県自然保護研究所紀要 2 : 123-127.
- 2) 大塚孝一・永井茂富・尾関雅章(2008) 長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路沿いの植物相. 長野県環境保全研究所研究報告 4 : 97-103.
- 3) 横井力・大塚孝一・尾関雅章(2012) 長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路の植物相補遺 I. 長野県環境保全研究所研究報告 8 : 75-76.
- 4) 清水建美監修(1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 5) 長野県植物目録編纂委員会(2017) 長野県植物目録-長野県植物誌改訂に向けてのチェックリスト(2017年版). 中央プリント株式会社, 長野.
- 6) 芹沢俊介(2008) キンミズヒキ属の再検討(2) 分類学的考察. シデコブシ 1 : 37-44.
- 7) Yamazaki Takasi (2001) Umegbelliferae in Japan III. 植物研究雑誌 76 : 307-320.
- 8) 東 浩司(2015) 長野県植物研究会 2014 年度大会特別講演要旨 長野県産セリ科シシウド属植物の分類学的問題点について. 長野県植物研究会誌 48 : 115-116.
- 9) 鈴木浩司(2017) 50 周年特別寄稿 長野県におけるヒュウガセンキュウの分布とシナノノダケについて. 長野県植物研究会誌 50 : 27-28.

- 10) Azuma Hiroshi (2014) A Newly Discovered Decaploid Species, *Angelica minamitanii* (Apiaceae) . *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 65(2) : 111-114.
- 11) 藤田淳一 (2016) 長野県におけるミチノクヨロイグサ (ケナシミヤマシシウド) *Angelica sachalinensis* Maxim. var. *glabra* (Koidz.) T.Yamaz.の生育確認と問題点. 長野県植物研究会誌 49 : 67-75.
- 12) 藤田淳一 (2017) 連続する特徴—長野県の不可解な植物たち—. 長野県植物研究会誌 50 : 161-163.
- 13) 芹沢俊介 (2017) 50周年特別寄稿 シシウド類覚え書き. 長野県植物研究会誌 50 : 29-30.
- 14) 芹沢俊介 (1997) 長野県のテンナンショウ属. 長野県植物研究会誌 30 : 1-15.
- 15) 邑田 仁 (2011) 原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ. 北隆館, 東京.

**Flora along the footpath in the nature observation area of
Nagano Environmental Conservation Research Institute
in Iizuna Heights, Nagano City : Supplement II**

Yuko ISHIDA¹ and Kiyoshi NAKAYAMA²

- 1 *Natural Environment Division, Nagano Environmental Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan*
(Present: Center for Environmental Studies, 2-1-22 Nishikicho, Tachikawa, Tokyo, 190-0022, Japan)
- 2 *194, Kajiya, Saku 385-0041, Japan*

付表 環境保全研究所自然観察路沿いの植物目録補遺 II

ヒカゲノカズラ科

ヒカゲノカズラ *Lycopodium clavatum*
 標本: NAC185002 伊藤静夫 2017/9/26

マンネンスギ *Lycopodium obscurum*
 標本: NAC184905 石田祐子 2017/10/26

ヒメシダ科

ミヤマワラビ *Thelypteris phegopteris*
 標本: NAC174867 石田祐子 2015/9/11

ツツラフジ科

アオツツラフジ *Cocculus trilobus*

ヤナギ科

シロヤナギ *Salix jessoensis*
 標本: NAC184908 石田祐子 2017/10/10

バラ科

オオキンミズヒキ* *Agrimonia pilosa* var.
viscidula
 標本: NAC174868 石田祐子 2015/9/11

ミヤマニガイチゴ *Rubus koehneanus*
 標本: NAC175952 石田祐子 2015/9/11

マメ科

クサフジ *Vicia cracca*
 標本: NAC174252 石田祐子 2015/7/22

ブドウ科

キレハノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* f.
citrulloides
 標本: NAC184914 石田祐子 2017/10/10

カエデ科

オニイタヤ *Acer mono* var. *ambiguum*
 標本: NAC175037 石田祐子 2015/9/11
 イトマキイタヤ *Acer mono* var. *trichobasis*
 標本: NAC176453 石田祐子 2015/9/11

コハウチワカエデ *Acer sieboldianum*
 標本: NAC174871 石田祐子 2015/9/11

ヒナウチワカエデ *Acer tenuifolium*

オオバミネカエデ *Acer tschonoskii* var.
macrophyllum

セリ科

ヒュウガセンキュウ* *Angelica minamitanii*
 標本: NAC185029 石田祐子 2017/10/10

ミチノクヨロイグサ* *Angelica sachalinensis* var.
glabra
 標本: NAC175950, NAC175951 石田祐子
 2015/7/31

モクセイ科

ケアオダモ *Fraxinus lanuginosa*
 標本: NAC184913 石田祐子 2017/10/10

アカネ科

キクムグラ *Galium kikumugura*
 標本: NAC184915 石田祐子 2017/10/10

スイカズラ科

オオニワトコ *Sambucus racemosa* subsp.
sieboldiana var. *major*
 標本: NAC174872 石田祐子 2015/9/11

マツムシソウ科

ナベナ *Dipsacus japonicus*
 標本: NAC174869 石田祐子 2015/9/11

キク科

ノブキ *Adenocaulon himalaicum*
 シナノタンポポ *Taraxacum hondoense*

サトイモ科

キタマムシグサ* *Arisaema peninsulae* subsp.
boreale
 標本: NAC178276 石田祐子 2015/6/1

イネ科

ササガヤ *Microstegium japonicum*
 標本: NAC184910 石田祐子 2017/9/26;
 NAC185011 伊藤静夫 2017/9/26
 コチヂミザサ *Oplismenus undulatifolius* var.
japonicus
 標本: NAC184912 石田祐子 2017/9/26;
 NAC185023 伊藤静夫 2017/10/10
 ルベシベザサ *Sasa palmata* var. *nijimae*
 標本: NAC183250 石田祐子 2016/7/14

*の学名は長野県植物目録 2017 に従った

採集標本については標本番号と採集者および
 採集日を記した